



発行所:十勝毎日新聞社  
〒080-8688  
帯広市東1条南8丁目  
電話(代表)0155-22-2121

2009年(平成21年) 2月15日 日曜日

# 「カムイ」の技術「お墨付き」



大樹町で打ち上げ実験を行い、着実にステップアップしてきたカムイロケット。JAXAの使用に関係者や大樹町の期待は大きい(昨年12月)

【大樹】NPO法人北海道宇宙科学技術創成センター(HASTIC、札幌)が2002年から大樹町を中心に打ち上げ実験を繰り返し、開発を進めてきた道産小型ハイブリッドロケット「CAMU I(カムイ)」。3月16日には宇宙航空研究開発機構(JAXA、東京)が初めて同ロケットを使い、研究中のエンジン部品の性能試験を行う予定だ。宇宙関連で国内最高機関であるJAXAのいわば「お墨付き」を得た形で、射場の確保などこれまで協力を惜しまなかった町側は、同ロケットの一層の成長を期待。「宇宙を夢見る研究者たちが気持ちよく実験できるよう、今後もお手伝いをしたい」(伏見悦夫町長)としている。

## JAXAが試験活用へ

### 宇宙基地構想 85年から協力

町は航空宇宙基地構想を掲げた1985年から、宇宙にかかわる実験に協力してきた。95年には町美成地区に多目的航空公園を開設、後に滑走路を舗装化するなどの取り組みを進めた。JAXAも積

6月に任意団体として設立。03年1月にNPO法人に認可された。植松電機(赤平市)の植松秀専務の技術・金銭的な支援もあり、小型・安価で安全なカムイロケットの開発が始まった。HASTICの伊藤謙一理事長は、大樹を実験場に選んだ理由として、障害物のない立地条件以外にも

## 大樹町「今後とも支援」膨らむ期待

極的に大樹で試験を行い、昨年からは大気球の放球実験も実施するなど着実に利用実績を重ねてきた。

一方、HASTICは02年

「宇宙産業への熱意がひしひしと伝わってきた」ことを挙げた。町は同航空公園北側の民有地をあっせん。大樹漁協

解を取り付けたほか、打ち上げ当日に人員を配置、安全警

ト内に落下するなどの失敗を教訓に、昨年12月には技術性を追求した実験に成功した。

### 2機打ち上げ 部品チェック

この優れた技術に着目したJAXAが今回、カムイを初めて使用し、北大と共同で研究中の宇宙往還機用のエンジン部品「エージェクターダクト」の性能試験を行う。宇宙往還機のような速度の機体が加速する際には、同ダクトが空気を吸い込んで推力を得ることが必要。JAXAによること、今回の試験では2機を打ち上げ、マッハ0.4ほどの速さの中で幾つかの項目をチェックすることになるよう

待する。JAXAの大気球の放球実験と並び、カムイの成功は大樹の宇宙産業誘致の結果でもある。伏見町長は「射場の整備なども視野に入れながら支援していく」とし、伊藤理事長も「大樹町とは未永い付き合いをしていきたい」と希望している。大樹が宇宙に目を向けて24年。夢は途切れることなく進んでいる。(北雅貴)

は、開発に携わってきた皆の努力や周囲の協力のおかげ。ひとまず形になってうれし